

目的 初等教育における家庭生活に関する技能の指導は、児童の手指の巧緻性の発達に適したものでなければならない。児童の巧緻性の発達をみるための評価の基準を得るため、今回はなみ縫いの評価について成人を対象に検討した。

方法

実験装置 — なみ縫いをする時の手指(右手第1指爪と第2指爪、右手第2指第1関節および左手第2指第1関節の4か所)の動きを、糸を用いてそれぞれの桿干に導き、キモグラフィ、オン上にインクで同時描写した。

被験者 — 家庭科専攻4年生 2名、修士課程1年生 3名、教官 2名、視力障害者(裁縫経験者) 1名

条件 — 各自の指長にあい、平常もつとも使いやすしいとしているもの針を用い、早さにとかわらず、針目をきれいに揃えることを条件とした。

結果 作品およびキモグラフィに描記された曲線から、縫い目数、縫い目の長さ、早さ、基線からの逸脱等について測定、分析し、なみ縫いの客観的評価の方法が得られた。他方、教師の主観による評価を求め、両者を比較し、なみ縫いの評価に関する考察より、初等教育におけるなみ縫いの指導方法について検討した。